

---

# タイトルなし

fluorite

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

タイトルなし

### 【NZード】

「5293」

### 【作者名】

fluorite

### 【あらすじ】

我ながら意味不明です。OTL

「ちょっとこ...、いいですか。」

スースにコートの男に不意をつかれて僕は驚いた。

「ええ、どうぞ。」

落ち着いて周りを見れば、彼に相席を求められる程、店内は混雑していなかつた。時間帯もまだであつた。断れば良かつたかと思つたが、彼はすでに席でハンバーガーをかじつていた。僕は外の澄み渡つた景色を眺め、残り少くなつたドリンクのストローをくわえた。

「嫌ですか。」

また不意をつかれた。空になつたドリンクをテーブルに置きながら、

僕はそんなことは無いと伝えた。

「嫌なんでしょう。」

彼の透き通つた声には嫌味が無かつた。僕は再び断つた。彼はその若さの残る顔に、満足気な表情を浮かべ黙つた。僕はテーブルの上の自分のマフラーに手をかける。

「ここにはよく来るんですか。」

「ええ……まあ。」

僕はマフラーを着けながら、適当に答えた。

「ふふふ。忙しいんですね。」

僕は答えずに上着を持ち、席をたつて彼に軽く会釈をした。徐々に混みだしてきた店内を一步進むと、背後から彼に呼び止められる。

「私は君のことが好きだよ。君はどうー。」

僕は……。

(後書き)

初めてこのサイトを使ってみる。すぐ消します

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5293j/>

---

タイトルなし

2011年10月6日16時30分発行